

●西和医療センター便り●



新型コロナワクチン接種について

**発症予防、重症化予防のため、
新型コロナワクチンの
予防接種が始まりました。**

- ・16歳以上の方が対象です。
- ・公費負担で受けることができます。
- ・2回接種が必要です。

新型コロナワクチン 3つのワクチンについて今わかっていること

会社名	ファイザー	モデルナ	アストラゼネカ	参考 インフルエンザ ワクチン
ワクチンの種類	mRNA	mRNA	ウイルスベクター	不活化ワクチン
接種回数	2回（21日間）	2回（28日間）	2回（28日間）	成人は通常1回
接種方法	筋肉注射	筋肉注射	筋肉注射	皮下注射
有効性 95% =接種していない人と比べて発症するリスクが95%減	95%	94%	70% 標準量2回:62% 低用量/標準量:90%	20~60%
多く見られた副反応 接種したところの痛み（70~90%） 疲労感（40~60%） 頭痛（30~50%） 悪寒（10~50%）	接種したところの痛み、疲労感、頭痛、悪寒、筋肉痛（18~55歳で50%以上）	接種したところの痛み、疲労感、頭痛、悪寒、筋肉痛（18~55歳で50%以上）	接種したところの圧痛・痛み、疲労感、頭痛、不快感、筋肉痛	接種したところの赤み、腫れ、痛み（10~20%） 発熱、頭痛、悪寒、倦怠感（5~10%）
アナフィラキシー反応 4.7例/100万回*	2.5例/100万回	8.7例/100万回**	1.3例/100万回	

*2021年2月12日時点での米国から報告より **2021年2月8日時点での英国からの報告より
厚生労働省「新型コロナワクチンの副反応の収集・評価について」令和2年12月25日
厚生労働省「ファイザー社の新型コロナワクチンについて」厚生労働省「インフルエンザQ&A」

接種順位・対象者の範囲の想定

2月17日 時点

接種順位の上位に位置付ける人の規模の推計

医療従事者等 約400万人

高齢者 約3600万人
昭和32年4月1日以前に生まれた人

基礎疾患のある人 約820万人

高齢者施設等の従事者
約200万人

60～64歳 約750万人

医療従事者

高齢者への
クーポン配布

高齢者

高齢者
以外への
クーポン
配布

基礎疾患のある人

高齢者施設等の
従事者

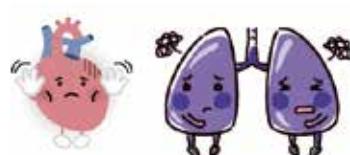
60～64歳

上記以外の人

基礎疾患のある人は、前もってかかりつけ医に接種の相談をしておきましょう

基礎疾患のある人の範囲

- (1) 以下の病気や状態の方で通院、入院している方
 - 慢性の呼吸器の病気
 - 慢性の心臓病（高血圧を含む）
 - 慢性の腎臓病
 - 慢性の肝臓病（肝硬変など）
 - インシュリンや飲み薬で治療中の糖尿病、ほかの病気を併発している糖尿病
 - 血液の病気（ただし、鉄欠乏性貧血を除く）
 - 免疫機能が低下するよう病気（治療中の悪性腫瘍を含む）
 - ステロイドなど免疫の機能を低下させる治療を受けている
 - 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
 - 神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態（呼吸障害等）
 - 染色体異常
 - 重症心身障害（重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複した状態）
 - 睡眠時無呼吸症候群



- (2) 基準（BMI 30 以上）を満たす肥満の方



令和3年2月17日 時点

接種の手続き

市町村から「接種券」と
「新型コロナワクチン接種の
お知らせ」が届く

広報やインターネットで
ワクチン接種できる会場を探す



接種会場で問診、筋肉注射、
15分から30分待機する

接種券と本人確認できる
運転免許証や健康保険証を
もって接種会場に行く

電話や
インターネット
で予約する

接種2回目を予約

接種時に1回目の時にもらった接種証明書を持っていく。
1回目と同様の手順で接種を受ける。

※1回目の接種でアナフィラキシー症状があった方は
2回目の予防接種を受けることができません。



接種の後の副反応が出たときは？

- ・アナフィラキシーショックが起きた時、接種会場や医療機関ですぐに治療をします。
アナフィラキシーショックとは急性のアレルギー症状で搔痒感、発赤、蕁麻疹、呼吸困難、意識レベルが下がる、悪寒、嘔吐、下痢などの症状があります。
- ・接種後に注射した部分が痛む、疲労、倦怠感、頭痛、筋肉の痛み、寒気、下痢、発熱などがあります。この症状は接種後、数日以内に回復します。
2日以上続くときは、予防接種を受けたことを話し、近医を受診しましょう。
- ・急を要するような呼吸困難などの症状が出た場合はすぐに診察を受けましょう。

予防接種を受ける際、同意が必要です。

予防接種を受ける方にはしっかり情報提供が行われたうえで接種の同意がある場合に接種が行われます。予防接種による感染予防の効果と副反応のリスクを理解したうえで自らの意志で接種を受けてください。

接種を受けた後の副反応が起きた場合の予防接種健康被害救済制度

副反応は極めてまれですが、ゼロではありません。健康被害が生じた場合、医療機関での治療や障害が残った場合に予防接種法に基づく救済が受けられます。

ワクチンの効果

効果やその持続時間は2月時点でもまだ
明らかになっていません

予防接種を受けた後も基本的な 感染対策を続けましょう！

マスク着用

手洗い・手指消毒

3密回避（密閉、密集、密接）



この情報は厚生労働省から
2月時点で出ている情報です。
広報でもご確認ください。

●お知らせ●

地域住民対象の公開講座

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、公開講座が当面の間、中止となっております。今後は、再開の日程が決まり次第、改めてお知らせいたします。ご理解の程よろしくお願いいたします。



医療職対象の講座

第74回地域医療連携講座

●令和3年5月20日(木)

感染症内科 医師 中村 孝人

「新型コロナ感染症の診療

～自分の経験を通じて～」

中央臨床検査部技師長 夔尾 茂

「当院における新型コロナウイルス検査について

～当院にて実施している検査方法の紹介～」

Zoomを利用したオンラインによる講座となります。

*変更の可能性もあります。

詳細はお問い合わせ下さい。



いつも新しい何かと出会える。ファミリーマートならではの豊富な品揃え



お客様の生活に寄り添った、便利なサービス。



■この度、奈良県西和医療センター院内売店がファミリーマートに変更となりました。

患者の皆さまや職員の皆さま、病院に係る全ての皆さまに、快適さとこころ温まる優しさをご提供する店舗となっておりますので、皆様のご来店お待ちしております。グランドオープンは5月11日(火)です。

「ファミユ」は年に4回の発刊を予定しています。地域の皆様の健康に役立ち、親しまれ愛される紙面作りをめざしていきます。

住民の皆様に役立つ情報・当院との連携についてなど、地域の登録医の先生方の投稿をお待ちしています。詳細は地域医療連携室へお問い合わせください。

発行・編集

奈良県西和医療センター情報誌

発行日 令和3年5月1日

編集者 地方独立行政法人奈良県立病院機構

奈良県西和医療センター 広報委員会

〒636-0802 生駒郡三郷町三室1-14-16

TEL:0745-32-0505(代表) FAX:0745-31-1354

